

1. 単元名 「古代のタイムカプセルから未来の街を創れ」

2. 単元の目標

- ・埋蔵文化財は、古代の人々の努力や工夫が反映されていることを知り、それが現代まで、人々の手によって守られていることを理解する。 (知識及び技能)
- ・埋蔵文化財が、なぜ残されてきているのかを考え、持続可能な社会づくりの手がかりを見出せる。 (思考力・判断力・表現力等)
- ・古代の人々も現代人も持続可能な社会を望んでいることに気づき、現実の社会課題を解決するために、自分たちに出来ることを考え、行動できる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、文化財でも、地中の中に埋まっている埋蔵文化財を対象にした。近年、考古学が対象とする埋蔵文化財が世界遺産に登録されたことや、2023年度に行われた国内最大級の円墳である富雄丸山古墳第六次調査から東アジア最大級の鉄剣（蛇行剣）と、これまでに例を見ない龍文（だりゅうもん）盾形銅鏡が出土し、国宝級と称され多くのメディアに取り上げられた。このように、埋蔵文化財に対する一般の人々の関心が高まりつつある。

昨今、持続可能な社会の開発目標（以下、SDGs）を達成するための取り組みが各方面で行われている。しかし、過去から学ぼうとする態度は顕著ではない。特に、埋蔵文化財が主対象とする時代は、現代と比較すると長期に渡って持続していた時代であり、そこには、何かしらの持続可能性のヒントが存在していると考えられる。

一方で、埋蔵文化財を作った古代人、それを守りつないできた後世の人々の努力や思いを考えることも重要である。なぜならば、埋蔵文化財が現在でも残っているのは決して奇跡的ではなく、人々の手によって守られてきているという事実があり、それを学ぶことによって、地域愛の醸成にも繋がりやすくなると考えているからである。

他方で、本単元は、歴史を学ぶにあたって最初の部分であるため、興味や関心を待たせるために実物を見せるなどして、生徒の反応をうかがいながら授業を進めていくことが必要である。

(2) 生徒観

本単元を行う前に、地域の歴史文化遺産に対する、知識・理解、興味・関心を図るアンケートを行った。その結果、地域の歴史文化遺産を「知らない」と回答した生徒が約8割で、興味・関心も「興味が

ない」と回答した生徒が約7割であった。また、前向きな回答をした生徒であっても、文化財が存在することが当たり前であるがゆえに、なぜその文化財が残っているのかといった歴史的背景まで理解している生徒は少ない。

また、地域の歴史文化遺産がつくられた時代、歴史文化遺産を守りつないできた人々が生きた時代、そして現代といったように、歴史をレイヤーで捉えられていない。歴史文化遺産は、奇跡的に残ったものではなく、各時代の人々の努力や思いによって残されていることも理解していないように思われる。そのため、発掘後の歴史文化遺産の保護に取り組んでこられた人々の思いに触れさせたい。

(3) 指導観

指導する際は、文字資料が少ない縄文時代、弥生時代、古墳時代の当時の様子をイメージさせるために、実物の資料や博物館が公開している3Dモデルなどを活用する。また、考古資料がメインとなる縄文、弥生、古墳の三時代は、教科書や資料集に提示されている資料だけでは質感や法量が伝わらず、各時代の理解の深まりが乏しい。そのため、生徒の議論を活発化させるためにも、博物館が公開している資料や教員自身が実際に遺跡に訪れた時の実体験などの生の資料を生徒に見せたり、伝えたりするように努めることで、個別の土器の差異や多様性にも気づかせたい。さらに、自分たちの住む地域の遺跡にスポットを当て、地元の歴史や文化についても触れさせることで、その当時を身近に感じさせたい。

一方で、ESDの観点から、1500年以上前のものが今でも残っていることの重要性について触れ、これまでどのように遺され、これからも廃れさせずに残していくためにはどうするべきかを、少しでも自分ごととして捉えさせるように意識する。また、地域の文化財や地域の人々の話を資料として扱うことで、自分の住む街の魅力に気づかせ地域愛の醸成にもつなげたい。さらに、これからの街づくりを考え、理想の街に向かっていけるような行動を促させたい。

(4) ESDとの関連

○本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

- ・有限性：古墳などの遺跡や1500年以上も前に伝来した文化が残っている。
- ・公平性：時代を超えて、よりよい生活のために行動している。
- ・連携性：渡来人など、様々な人との関わりのなかで国がつくられている。

○本学習を通して育てたいESDの資質・能力

- ・システムズ・シンキング：国ができる過程について各時代の庶民の生活文化や気候から考える。
- ・コミュニケーション力：自分の意見を発表し、他人の意見を聞いて考える。

○本学習で変容を促すESDの価値観

- ・世代間の公正：1万数千年前～現代にいたるまでに日本に住んでいた人々の工夫や思いによって日本という国が受け継がれてきたから、これからも当時の人々の工夫や思いを受け継ぎながらも、新しい形で伝えていきたい。

○達成が期待される SDGs

- ・ 11：住みつつづけられる街づくりを
- ・ 13：気候変動に具体的な対策を
- ・ 16：平和と公正を全ての人に
- ・ 17：パートナーシップ（国際交流）

4. 単元の評価規準

ア 知識及び技能	イ 思考力・判断力・表現力等	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>①埋蔵文化財は、古代の人々の努力や工夫が反映されていることを理解している。</p> <p>②埋蔵文化財が現代まで、人々の手によって守られていることを理解している。</p> <p>③古代と現代を比較し、共通点と相違点を理解している。</p>	<p>①古代人の生活の工夫や努力を埋蔵文化財から考えることができる。</p> <p>②埋蔵文化財が、なぜ残されてきているのかを考え、持続可能な社会づくりの手がかりを見出せる。</p> <p>③古代と現代の幸福感を考えられる。</p>	<p>①古代の人々も現代人も持続可能な社会を望んでいることに気づき、現実の社会課題を解決するために、自分たちに出来ることを考え、行動できる。</p> <p>②自分たちの住む地域の街の伝統を継承しつつ、未来の街を創造し、それに向けて行動できる。</p>

5. 単元の指導計画（全7時間）

次	学習活動	指導上の留意点	評価
<p>一次（見つめる）</p>	<p>①埋蔵文化財について知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;">埋蔵文化財って何だろう？</div> <p>○地域にある埋蔵文化財（土器・埴輪）に触れる。 ※触れているものが何なのかを考える。</p> <p>○古代人が使った道具（レプリカ）を実際に使用する。</p>	<p>・レプリカの土器を使用し、感じたことを意見交流させる。</p> <p>・使用したものが何年前に使用されていたものなのかを想像させる。</p> <p>・レプリカで、古代人がどのように使用していたのかを考えさせながら実際に使用させ、現代の道具とも比較させる。</p>	<p>アー①</p>

	<p>②地域の遺跡を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>自分たちの街にはどんな埋蔵文化財があるのだろうか？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域にある遺跡を、文化財マップなどを活用して探す。 	<p>○地域の文化財マップや、タブレットなど活用して探させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知っている文化財を出し合う ・ 他にも文化財はあるのだろうか？ →マップなどで探す。 	<p>アー①</p>
<p>二次 (調べる)</p>	<p>③地域にとって遺跡がどんなものかを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>私たちにとって自分の街の埋蔵文化財はどんなもの？</p> </div> <p>○遺跡を訪れて、以下の項目を班ごとに調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遺跡の特徴 ・ 遺跡の保存 ・ 遺跡の活用 	<p>○遺跡の特徴・保存・活用について現地調査させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時で調べた地域の遺跡の特徴、保存と活用の調査を通して、地域の人々が遺跡とどのように関わっていたのかを気づかせるとともに、1500年以上も前から地域に人が住んできたことに気けるようにする。 ・ どのような遺跡だった？ ・ なぜ、今でも遺跡が遺っているの？ ・ 地域の遺跡はどのように活用されているの？ 	<p>アー②・③</p>
	<p>④古代の道具を調べる。(博物館)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>私たちの地域に住んでいた古代の人々は、どんな道具を使用していたのだろうか？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 博物館にある古代の人が使っていた道具を探し、使い方や工夫を調べる。 ・ 道具の材料の工夫 ・ 道具を作るときの工夫 ・ 道具を使用するときの工夫 	<p>○博物館に行き、古代人が使用していたものにはどんなものがあるのかを、時代ごとに分類して調べさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時代を超えて共通している物がある事に留意させる。 ※なんのために様々な道具が開発されたのかも考えさせる。 	<p>イー①</p>

	<p>⑤朝鮮半島との交流がわかるものを探しながら、どんな人々が生活していたのかを考える。(GT：博物館学芸員)</p>	<p>○博物館のなかにあるもので、朝鮮半島との交流が伺えるものを探させる。</p>	<p>イー①</p>
	<p>私たちの地域には、どんな古代の人々が住んでいたのだろうか？</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・学芸員に質問し、ヒントをもらいながら探す。 ・朝鮮半島から伝わったものが希少的、先進的なものであることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮半島から伝わったものは、古代の人々は、どのような思いで受け入れたのかを考えさせる。 ・古代の日本人は朝鮮半島のものを得るためにどんな事をしてたのかを考えさせる。 ※魏志倭人伝の話などを持ってくる。 	
<p>三 次 (深 め る)</p>	<p>⑥古代の人々の生活の工夫を考える。</p>	<p>○古代の人々の生活の工夫を考えさせる。</p>	<p>イー①・②</p>
	<p>私たちの地域に住んでいた古代の人々は、どんな工夫をして生活していたのだろうか？</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・古代の人々が生活するのに、どんな工夫をしていたのかをグループで考える。 ※各グループに学生一人をつける。 ・衣類に関する工夫 ・食事に関する工夫 ・住居に関する工夫 ・コミュニティの工夫 ・職の工夫 ・現代の街は幸せな街になっている？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・学芸員とともに、古代人はどんな生活をしていて、どんな工夫をしていたのかを各グループで話し合う。 ※学芸員から最近の研究成果を聞く。 ※学芸員と、学生（考古学を学ぶ学生）を各グループに1人以上配備し、共に古代人の生活を考える。 ・これまでの学習を想起させながら、古代人がどんな思いで生活していたのかを考えさせる。 ・現代の街が幸せな街になっていたのかを考えさせる。 	

四次 (広げる)	<p>⑦過去と未来をつなぐ中学生視点のまちづくりを考案しよう。</p>	<p>○古代人が目指した街を振り返させながら、未来の街を計画させる。</p>	<p>アー③ イー② ウー①・②</p>
	<p>古代人の思いを受け継ぎながら、新しい自分たちの理想の街を作ろう。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・古代の生活の工夫で調べた衣・食・住・職・コミュニティの班で、調べたことを踏まえながら、理想の街を計画する。 ・班ごとに計画した街を繋げ、クラスで一つの理想の街を作る。 ・作成した街を、他学年、地域の人々、市役所の人、学芸員などに評価してもらおう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣・食・住・職・コミュニティのそれぞれを軸とした街づくりを、班ごとに計画させる。 ※持続可能な街になるようにすることを意識させる。 ・班ごとに考えた街を繋げながら、本当にみんなが幸せに暮らせる街になっているかを、再度考えさせるようにする。 ・評価する際に、独創性・実現可能性・幸福性を基準とし、評価してもらおう。 	

指導：中澤静男（奈良教育大学E S D・S D G s センター）